

地域医療をしつかりと守っていくことだと思っています。

工藤 基幹医療センターは紹介型病院となりますが、住民の皆さんはどのようにとらえていますか。

白田 私は基幹医療センターの建設予定地の近くに住んでいます。地域では、大きな病院が近くにでき、便利になると思っっている人が多く、紹介型病院としての理解は進んでいません。地域医療体制の理解が進むよう、様々な形でPRをしていただきたいと思います。

工藤 小さいお子さんは症状が急変したりしますが、そういう時に、何か不安がありますか。

山浦 再構築により、白田の本院に小児科医がいなくなると聞きました。白田地区のお母さん方は、不安に感じていると思います。ぜひ、本院のお医者さんの確保に努めていただきたいと思います。

伊澤 そのような地域のニーズに添えていくのが我々医療機関の使命だと考えておりますが、現在の常勤小児科医だけでは、分割しての医療提供は大変厳しい状況です。そこで、基幹医療センターで入院患者中心の医療提供を、また白田の本院で1次診療がしつかり行えるように、なんとか医師を確保していきたいと考えています。

工藤 人材の確保は非常に大きな課題です。労働が厳しい中で、重症者も軽症者も同じように診ていければ医師がバンクしてしまいます。このような状況の中、住民の皆さんには病院を守り、また育てていただくことをお願いしたいと思います。また、病院の厳しい状況を住民の皆様にお伝えするのは行政や医師会であると思いますが、市長いかがでしょうか。

市長 佐久地域では、医者と地域の住民の皆さんとの信頼関係も厚いので、今後もこの状況を維持できるような継続的な仕組み作りが大切だと思います。また、医療関係者の過酷な勤務状況の中、上手な医療のかかり方ということを大きな課題とし、情報発信していきたいと思っています。

工藤 本番前の打ち合わせの時に伊澤院長から、研修医が佐久の住民は優しいと言ったというのがあります。たが、やはり人間関係が大事じゃないかと思いますがどうでしょうか。

飯島 例えば小児の夜間救急を考えた時に、昔はお婆ちゃんのお知恵と言いますか、一緒に住んでいるお年寄りに聞いて、受診の必要性の判断ができたと思います。今は核家族化が進み、みんな病院に駆け込んでしまうという状況があります。東京では、病院にかかるときかを相談する電話窓口があります。

す。行政でそのような情報提供をしただけではと思っています。

鳥海 長野県でも電話相談があります。#80000です。これは、ベテランの看護師を中心に、夜間11時まで全県からの相談を受け付けています。そして、信州大学の小児科の当直医にバックアップ体制を取っていただいています。

工藤 いろいろな情報があるので、ぜひ利用したいと思っています。それでは最後に、それぞれのお立場で、佐久の医療をどう守っていくかご発言ください。

白田 地域医療を守るには市民の意識改革が大切だと感じました。民生委員としても地域に出て、新しい医療体制の話をする中で、多くの人たちに理解してもらえらると思っています。これまで以上に医療と福祉が融合した高齢者や障がい者など生活弱者に優しい街づくりをしていただきたいと思います。

山浦 病院の先生方も勤務が大変だということを知ったので、私たちもホームページや電話相談等を利用しながら、地域医療を守るために何かできるか、皆で考え行動して行きたいと思っています。また、市長さんにお願ひですが、奨学金等により、佐久の子ども達を佐久のお医者さんにして、佐久を元氣

にするようなことも考えていただければ、嬉しいと思います。

市長 医師の増加策は国策として考えるべき大きな課題ですので、国へも申し上げていきます。しかし、地域の医療は地域で考えなければなりません。佐久市にも奨学金制度はありますが、医学部に対応した制度設計となっていないので、真剣に考えなければと思っています。また、行政の役割として、

地方の報道機関と連携しながら、医療と市民の皆さんとの関わりを深く掘り下げるような努力を行っていきたくと思っています。

坂戸 佐久の医療を守るためには、各医療機関の役割分担と連携強化が重要になります。また、住民の皆様にかかりつけ医の重要性をご理解いただき、医療機関へのかかり方等ご負担いただくこともありますがご協力をお願いします。

伊澤 地域のニーズに添えられる地域医療連携のモデル作りは、我々に課された使命です。そのための下支えになるのは人材の確保であり、特に医師の教育、養成と看護師の教育が必要です。佐久病院の50年程の歴史を生かし、これからもこの重点課題に力を入れていきたいと考えています。

者と患者さんとの間のコミュニケーションが重要なことだと考えています。

飯島 佐久市医療体制等連絡懇話会に参加していますが、市民の方に医療機関を育てていくという意識を持っていただくためにも、そのお作法を学んでいただくことをキャンペーンしてくださいます。上げました。市民の皆さんが同じお作法で医療機関を育てるということを意識していただきたいと思います。

鳥海 地域医療を守る当事者は、市民の皆さんです。まずは病気にならないように健康に気をつけていただき、さらに、かかりつけ医をぜひ持っていただきたいと思います。報道でも話題になりましたが、兵庫県立柏原病院で小児科が閉鎖するといったときに、お母さんが自ら行動したことが病院の再建につながったということがあります。そういう皆さんの行動が、勤務状況の厳しい先生方の元氣な源となり、また勇気づけていることをご理解いただきたいと思います。

あとがき
シンポジウム開催後、民生児童委員の皆さんに、「紹介型病院」の機能と役割について、説明をさせていただきますました。

地域医療を守る

市民シンポジウム

「パネルディスカッション」から

先月号に続き、9月12日に開催したシンポジウムについて、「パネルディスカッション」の内容をお伝えします。

ご参加いただいた皆様をご紹介します。(敬称略)

コーディネーター(司会)

工藤 猛(佐久市行政顧問、長野県医師会常務理事、前佐久医師会長)

パネリスト

白田誠三郎(前佐久市民生児童委員協議会長)

山浦さとみ(全佐久PTA連合会・父親母親委員長)

坂戸 政彦(佐久医師会長)

伊澤 敏(JA長野厚生連佐久総合病院長)

村島隆太郎(佐久市立国保浅間総合病院病院事業管理者)

飯島 正文(昭和大学病院長)

鳥海 宏(長野県衛生技監)

柳田 清二(佐久市長)

適な医療提供ができるよう医療機関相互の情報交換を密にし、役割分担と連携強化を進めています。

工藤 佐久地域は医療に恵まれた地域です。その一つに、住民も医者も困った時の佐久病院だのみというところがありました。しかし、その佐久病院が今、悲鳴を上げています。

そこで、地域の医療機関が協力し医療提供を行う形にシフトしてきています。住民として、どう感じていますか。

白田 私も医療面において佐久市は充実しており、市民は恵まれていると思っております。一方で両病院の混雑ぶりから医師の大変さも感じています。医療崩壊が起こらないようこのシンポジウムのような機会ができ、嬉しく思います。

山浦 今まで、医療崩壊など全く考えませんでした。最近、出産の受付の時に予約がいっぱいで、他の病院へ行って欲しいと言われてたという話を聞きました。上田市等の近隣の病院で出産を扱わなくなり、その影響が佐久にも出てくるのかなと感じました。

工藤 勤務医の過重労働等、佐久の医療も厳しい状態の中、佐久病院の再構築は、逆に、佐久の医療を充実させるチャンスでもあると思います。そこで、基幹医療センターの機能や

役割等について説明をお願いします。

伊澤 再構築計画では、白田には本院機能を残し、地域のニーズに応えながら、外来の患者をしっかりと診てまいります。基幹医療センターは、入院が必要な重傷患者を診る病院です。機能としては、

①救命救急センターとして、ドクターヘリも活用しながら、重症患者の救命に全力を尽くします。

②脳卒中や脳出血、心筋梗塞等、命に関わるような血管の病気を迅速に診る機能を果たします。

③手術が必要ながんや抗がん剤を使った化学療法等によるがんの診療を行います。他の病院では診れない重症のがん患者の診療もします。

④周産期医療センターとして、リスクの高いお産を主に取り扱うようにします。以上の4つが柱です。

工藤 最初、佐久病院の再構築の話があったとき、浅間病院の近くに開設されることで、お互いが共倒れになるのではとの心配が出たわけですが、病院同士の連携をどのように考えていますか。

村島 浅間病院に全く影響が無いわけではありませんが、上手に役割分担をしていくことを考えています。当院に無い機能は、佐久病院にお願ひし、市立病院としての役割、特に産科・小児科を重点に

担い、さらに、必要な救急医療も行っていきたいと考えています。また、当院の特徴を生かした医療提供を行っていきたいと思います。

工藤 今後の機能分担の中で、中核病院は重症患者や入院患者の治療にシフトしていく形になると、それまで両病院で診ていた軽症患者さんは、開業医や中小の病院が診ていく状況になります。そうすると、夜間の一次救急の対応が課題となりますが、医師会の対応はどうでしょうか。

坂戸 医師会では、昨年10月から休日小児科急病診療センターを、また、本年10月からは平日夜間の急病診療センターをそれぞれ浅間病院内に開設し、診療所の医師で担当しています。医療連携の中で、かかりつけ医が今まで以上に重要となるため、医師会としても情報発信しますのでご理解願います。

工藤 行政としての取り組みはどうでしょう。

市長 行政の役割としては、まず情報交換のテーブル作りがあります。市が設置した佐久市医療体制等連絡懇話会では医療関係者による情報交換が行われております。またこのようなシンポジウムも市民の皆さんに対する情報提供の場です。さらに市立病院の設置者として、浅間病院の機能を充実させ、

工藤 医療も非常に大変な時代だと思えますが、現在の医療現場の状況をお話してください。

伊澤 佐久病院は、建物の老朽化や、医療情勢の変化に対応する必要から、関係する皆様のご理解をいただきながら、再構築に取り組んでいます。その進捗状況ですが、(仮称)基幹医療センターの実設計が今年度内に完了する見通しです。医師については、産婦人科、

麻酔科、小児科、血液内科、外科

がかなり忙しい状況です。

村島 浅間病院では、県のドクターバンク等を利用したり、私自身も全国をまわり医師確保に努めています。内科、泌尿器科(人工透析部門)、麻酔科の医師は不足しています。施設的には、手術室等が老朽化しており、その整備を考えています。

坂戸 医師会では、患者さんに最